

# 「いただく」を用いた依頼表現の使用実態

野呂 健一

高田短期大学キャリア育成学科

## 1. はじめに

文書や改まった場面で、他人にある行為を依頼する場合に、以下のような表現が用いられる。

- (1) ご協力くださいますようお願いいたします。
- (2) ご協力いただきますようお願いいたします。

「くださる」は「くれる」の尊敬語であり、行為者は聞き手であるのに対し、「いただく」は「もらう」の謙譲語であり、行為者は話し手である。日本語文法の規範からすると、依頼するのは聞き手の行為であるということになるため、(1)の方が正しい表現であるとされているが、実際の使用状況を見ると、(2)も(1)と同様、あるいはそれ以上に広く用いられている。

- (3) どうか、先ほどの宣誓の言葉にありましたように、全体の奉仕者として、県民の皆様のため、今日から心を新たに頑張ってご活躍いただきますよう、心からお願いを申し上げます。

(<http://www.pref.aichi.jp/chiji/hatugen/2014/0401.html>)

- (4) 皆さんにも、全国から集まる選手や関係者、応援の人々を「おもてなしの心」で暖かく迎え、大会を大いに盛り上げていただきますようお願いいたします。 (『広報きさらづ』\*)<sup>1</sup>

(3)は大村秀章愛知県知事による平成26年度新規採用職員入庁式の際の訓示であり、(4)は千葉県木更津市の広報誌に掲載された、国民体育大会への協力依頼の文章である。このような公的な場面での発話や文章においても、「いただく+依頼表現」が使用されている。

近年「いただく」の使用の広がりが見られ、(2)のようなくいただく+依頼表現もその一環であると言える。本稿では、学生の文章作成課題やコーパスの検索結果から、くいただく+依頼表現の使用実態を確認する。また、「ご来店いただきありがとうございます」のように感謝表現とともに用いる場合に比べ、規範からの逸脱の程度が大きいことを指摘する。

## 2. 「いただく」の過剰使用について

近年の日本語では、従来であれば「くださる」を使っていたところに「いただく」を使用する傾向にあることが、秋田(2010)や野口(2013)において指摘されている。

秋田 (2010) は、「くださる」の代わりに「いただく」が選ばれるようになった理由として、「相手の行為を直接表現するのを避ける」という敬語表現における認識から<sup>2</sup>、「行為の主体者が〜てくれる」との表現を避け、「わたしが〜てもらおう」という表現の方へシフトしていったこと」(p.55)などを挙げている。

野口 (2013) は、以下の例について、(5)の方が本来は自然な日本語であったのだろうが、現在では(6)を不自然だと見なす人はいないとし、「いただく」が勢力を伸ばしていると述べている。その理由として、「もらった側(=私たち)を主語にとる『いただく』の方が、私たちの喜びや感謝の気持ちがよりはっきりと出る」と感じる人がおおくになっている」(p.33)ためであろうと述べている。

(5) ご来店くださいませ、まことにありがとうございます。

(6) ご来店いただきまして、まことにありがとうございます。

また、文化審議会答申「敬語の指針」には以下のような記述がある。

**【17】** いつも「御利用いただきましてありがとうございます」と言ったり、書いたりしているのが「御利用くださいませ」の方が良いのだろうか。どちらが適切なのだろうか。

**【解説1】** 「御利用いただく」は謙譲語Ⅰ「御利用くださる」は尊敬語である。つまり、「(自分側が相手側や第三者に)御利用いただく」、「(相手側や第三者が)御利用くださる」という基本的な違いがある。しかし、立てるべき対象はどちらも同じであり、また、恩恵を受けるという認識を表す点も同様であるため、どちらの言い方も適切に敬語が用いられているものである。

**【解説2】** 謙譲語Ⅰの「御利用いただく」の使い方には、問題があると感じている人たちがいる。その理由としては「利用する」のは相手側や第三者なのだから、尊敬語である「御利用くださる」を使うべきだということなどが挙げられているようである。

しかし「御利用いただく」は「私はあなたが利用したことを(私の利益になることだと感じ)有り難く思う」という意味を持った敬語である。「利用する」のは相手側や第三者、「御利用いただく」のは自分側、という点がやや理解されにくい敬語であるが、自分側の立場から相手側や第三者の行為を表現した敬語であり、敬語の慣用的な用法として特に問題があるわけではない。(以下省略)

このように、文化審議会は、「御利用いただく」は、問題があると感じている人がいるものの、「御利用くださる」と同様、適切に敬語が用いられていると述べている。ただし、問題があると感じている人の理由として挙げている、『利用する』のは相手側や第三者なのだから、尊敬語である『御利用くださる』を使うべき』というのは、説明が不十分だと考えられる。

この点について、NHK 放送文化研究所の塩田雄大は、「敬語の指針」と同様、「〜くださる」も「〜いただく」も正しい言い方だとしたうえで、「〜いただく」がおかしな表現だと考える人の根拠として、以下のように述べている<sup>3</sup>。

「くださる」は「くれる」を敬語の形にしたものなので、たとえば友達に対しては次のように言うことができます。

「教えてくださりありがとうございます。」⇒○「教えてくれてありがとう。」

一方「いただく」に対応する「もらう」では、同じように言いかえることはできません。

「教えていただきありがとうございます。」⇒×「教えてもらってありがとう。」

このように、もともと「教えてもらって～」とはふつうは言わないのだから「教えていただき～」も変なのだ、というのがその根拠になっています。

つまり、「教える」のは相手なのに、尊敬語「くださる」でなく謙譲語「いただく」を用いているからおかしいのではなく、「ありがとうございます」とのつながり方に問題があるということである。相手の行為に対して御礼を述べるのであるから、相手を主語にとる「教えてくださりありがとうございます」の方が自然だと考えられる。

それに対して、「教えていただきありがとうございます」を違和感なく用いるという立場もある<sup>4</sup>。「～いただく」で、話し手が相手から恩恵を受けたことを表し、その後に御礼の言葉を続けるという考え方ができる。つまり、「(私は) 教えていただきました。(そのことに対して) ありがとうございます」ということである。

### 3. 短期大学生への課題から見る使用実態

高田短期大学キャリア育成学科オフィスワークコース1年生に対し、授業内に文章作成の課題を課し、その解答から、「いただく」「くださる」の使用状況を考察した。

敬語を使わない表現を提示して、適切な表現に直させる形式で実施した。具体的には、以下の(7)～(9)について、ホテル利用客への礼状として適切な表現を考えさせた。

- (7) 今度のおたくの新社屋披露パーティーの開催について、うちのホテルを利用して、ありがとうございます。
- (8) スタッフ全員、懸命にサービスに努めたが、満足してもらえたか。
- (9) これからも宴会や会合のときは、うちのホテルを利用してくれるよう、よろしく頼む。

まず、(7)については、「利用してくれて」を尊敬語に変え、(10)のように「くださる」を用いた学生はわずか3名であったのに対し、(11)のように「いただく」を用いた学生が22名と圧倒的に多かった。

(10) 当ホテルをご利用くださりありがとうございます。

(11) 当ホテルをご利用いただきありがとうございます。

次に、(8)については、25名が(12)のように「いただく」を用い、2名が「もらう」をそのまま用いていた<sup>5</sup>。「くれる」を用いた解答はなかった。

(12) ご満足いただけましたでしょうか。

最後に、(9)については、以下のとおりの結果となった（括弧内は解答した学生数である）。

(13) 当ホテルをご利用くださいますようお願いいたします。（12名）

(14) 当ホテルをご利用いただけますようお願いいたします。（8名）

(15) 当ホテルをご利用いただけますようお願いいたします。（4名）

「くださる」が多数派であるものの、「いただく」の広がりが見られる。ただし、訂正前の表現に「利用してくれるよう」と「くれる」が含まれているため、「いただく」を通常用いている学生が、「くださる」を用いている可能性は否定できない。そのため、(13)～(15)の解答数以上に、「いただく」の使用が広がっている可能性はある。

#### 4. コーパスによる検索結果

学生の文書作成課題の解答からは、依頼表現と結びつく場合、「くださる」の方がやや優勢であったが、コーパスの検索結果では「いただく」の方がやや優勢であった。

表1は、「くださいますよう」「いただきますよう」「いただけますよう」を含む文を、現代日本語書き言葉均衡コーパス『中納言』から収集し、その中から、「お願いします」のような依頼表現に接続するものを抽出した結果である<sup>6</sup>。

表1 「ください/いただき/いただけますよう」の検索結果1

くださいますよう（お願いします）	97件
いただきますよう（お願いします）	102件
いただけますよう（お願いします）	11件

表1が示すように、「くださいますよう」と「いただきますよう」の検索件数にほとんど差は見られなかった<sup>7</sup>。この結果からも「いただきますよう」の使用の広がりが確認できる。それに比べ、「いただけますよう」の検索件数は少なく、新規の表現であることが伺える。

表2は、検索エンジン google の検索結果である<sup>8</sup>。「ください/いただき/いただけますよう」と後続する依頼表現までを完全一致検索した。その結果、調査した6つの依頼形式のうち5つまで、「いただきますよう」が「くださいますよう」を上回った。また、『中納言』の検索結果に比べ、「いただけますよう」の検索件数の多いことが分かる。

表2 「ください/いただき/いただけますよう」の検索結果2

	くださいますよう	いただきますよう	いただけますよう
お願いします	約 658,000	約 856,000	約 551,000
よろしくお願いします	約 374,000	約 407,000	約 367,000
お願いいたします	約 10,400,000	約 11,500,000	約 1,210,000
よろしくお願いいたします	約 422,000	約 484,000	約 442,000
お願い申し上げます	約 1,680,000	約 1,390,000	約 948,000
よろしくお願い申し上げます	約 375,000	約 404,000	約 352,000

以上のように、コーパスの検索結果からは、「いただきますよう」が広く使用されており、「くださいますよう」よりも優勢になってきていると言える。

## 5. 「いただく+依頼表現」の問題点

2章で述べたように、「いただく」の使用は広がってきており、特に感謝表現とともに用いられることについては、容認されつつあると考えるべきであろう。それに対して、本稿が考察対象とする、依頼表現との共起については、いまだ問題のある表現だと考えられていることが多い。

萩野（2005）は、「『いただく』のは書き手の側、つまり協力を受ける側の行為なのである。それを読み手、協力する側の行為に用いたのではまったくの逆である」（p.91）と述べ、「～いただきますようお願いします」が誤用であると明言している。

以下の例から確認できるように、「～よう願ひする」という表現は、聞き手にある行為を行うことを依頼する表現であるから、「～よう」で表される行為の主体は聞き手である。

(16) マナーを守ってプレイするようお願いします。

(17) 道路にはみ出した樹木の枝や障害物などは、撤去するようお願いします。

一方、前述したように、「教えていただく」の場合、「教える」のは聞き手であるのに対し、「いただく」のは話し手自身である。したがって、「教えていただきますようお願いします」とすると、自分の行為を相手に依頼することになってしまう。

また、前章で述べたように、「～いただきありがとうございます」の場合、「(私が)～いただき、(そのことに対して)ありがとうございます」と解釈することができる。それに対し、「～いただきますようお願いします」の場合、「(私が)～いただきますようお願いします」とすると奇妙に感じられる。

このように、「～いただきますようお願いします」という表現は、話し手自身の行為である「～いただく」を、相手への依頼表現の中で用いている点が問題点とみなされているのである。

次に、「いただく+依頼表現」において、「～いただく」の持つ「恩恵の授受」という意味が薄れてし

まっている場合があることを指摘する。周知のとおり「いただく」には本動詞の用法と補助動の用法がある。「先生から香典をいただいた」のように、モノの授受を表す本動詞としての用法に対し、「～いただく」の場合は補助動詞であり、恩恵の授受を表す。つまり、相手がした行為によって話者が恩恵を受けることを表すのである。

(18) 決済方法の選択は各ショップにて取り決めを行っておりますので、お問い合わせなどございましたら、ご利用になりたいショップまでお問い合わせいただきますようお願いいたします。

(<http://delivery.rakuten.co.jp/com/faq/credit.html>)

(19) 県民のみなさまにおかれましても、戦没者に哀悼の意を表し、平和を祈念するため、8月15日(金)正午より、家庭・職場等において、1分間の黙とうを捧げさせていただきますようお願いいたします。( <http://www.pref.mie.lg.jp/kenkika/sogoh/details/index.asp?cd=2014080047>)

(18)は、出前・宅配サービス専門のポータルサイトの文章である。問い合わせるのはホームページ閲覧者であるが、その行為によって、恩恵を受けるのは話者であるサイト運営者というよりも閲覧者自身である。また、(19)は、三重県のホームページで、全国戦没者追悼式開催を周知する文章であるが、黙とうを捧げるという行為による恩恵の授受という意味合いはあまり感じられない<sup>9</sup>。

また、以下の例では、誰が恩恵を受けるのかがはっきりしない。

(20) やむを得ず参加できない場合は、代理の方にご出席いただきますようお願いいたします。

(<http://www.idcjapan.co.jp/Seminar/directions2014/regist.html>)

(21) たくさんの皆さんにご覧いただきますよう、よろしくようお願いいたします。

(<http://www.city.morioka.iwate.jp/shinsai/13745/index.html>)

いずれの場合も、文意からすれば、恩恵を受けるのは依頼の主体である話者だと考えられるが、(20)の場合、「代理の方」が出席することによって、(21)の場合、「たくさんの皆さん」が見ることによって、聞き手が恩恵を受けるという解釈も可能になる。このように聞き手とは別に行為者が二格で表される場合、恩恵を受けるのが聞き手か話し手かで曖昧になる可能性が生まれる。

## 6. おわりに

近年「いただく」の使用は広がりを見せており、特に感謝表現とともに用いられることについては、もはや誤用とは言えない状況である。そのことについては、文化審議会答申「敬語の指針」において、「ご来店いただきましてありがとうございます」は、適切に敬語が用いられていると述べられている。

それに対し、「ご協力いただきますようお願いいたします」のように依頼表現とともに用いることについては、いまだ抵抗を感じる人が少なくない(萩野 2005 は、はっきりと誤用であると述べている)。しかし、筆者が授業内で実施した文書作成課題の回答やコーパスの検索結果を見る限り、この表現についても広

がりを見せていることが分かった。

「いただく+依頼表現」が誤用とされる理由については、話し手が主体である「いただく」を聞き手への依頼の中で用いていることが挙げられる。また、「いただく」の持つ「恩恵の授受」という意味が希薄化している場合や、恩恵を受けるのが話し手か聞き手かで曖昧になる場合があることを指摘した。

### 【注】

- 1 例文の後に出典と「\*」が付してあるものは「現代日本語書き言葉均衡コーパス『中納言』」からの引用であることを示す。
- 2 庵他 (2000) は、以下のような例を挙げ、「～てもらう」は動作主を主語にしないため、「～てくれる」と比べてやや丁寧な印象を与える (p.113) と述べている。
  - a. 先生、本を貸してくださいませんか。
  - b. 先生、本を貸していただけませんか。
- 3 塩田雄大「最近気になる放送用語「教えてください」「教えていただき」？」NHK放送文化研究所, <http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/146.html>, 2011.10.1 閲覧
- 4 山口 (2008) も、本来ならば不適格となるはずの「Vていただいてありがとうございます」が許容されていることを指摘している。
- 5 「もらう」を用いた学生は、「もらえましたでしょうか」と丁寧語を用いていた。
- 6 調査実施は、平成 26 年 12 月。
- 7 表 1 に示した件数について、「くださいますよう」「いただきますよう」の前にくることの多かった語句は表 3 のとおりである。なお、「賛同」「可決」と共起するのは国会会議録の中の表現である。

表 3 「ください/いただきますよう」との共起件数

	くださいますよう (お願いします)	いただきますよう (お願いします)	計
賛同	13	5	18
可決	12	3	15
協力	4	5	9
利用	2	5	7
参加	3	2	5
指導	4	1	5
連絡	1	4	5
出席	3	1	4
理解	1	3	4

- 8 調査実施は、平成 27 年 1 月。

9 このことは、「私があなたに問い合わせてもらおう」「私があなたに黙とうを捧げてもらおう」とは言い難いことから確認できる。それに対し、「ご協力いただきますようお願いいたします」の場合、「私があなたに協力してもらおう」と言える。

#### 【引用文献】

庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

秋田恵美子（2010）「「いただく」の過剰使用傾向について」『創価大学別科紀要』20号，pp.32-60.

野口恵子（2013）『失礼な敬語 誤用例から学ぶ、正しい使い方』光文社新書

萩野貞樹（2005）「知らずに使っている！ビジネス敬語誤用辞典」『プレジデント』43巻20号，プレジデント社，pp.90-93.

文化審議会（2007）「敬語の指針」[http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo\\_tousin.pdf](http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf)

山口真里子「授受補助動詞の使用制限に与える敬語化の影響について：「くださる」「いただく」を用いた感謝表現を中心に」『国際広報メディア・観光学ジャーナル』6号，北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院，pp.69-89.